



# えが お

令和7年6月5日発行  
第3号

都立城東特別支援学校長  
秋本 友美

## 高めよう！伝える力

校長 秋本 友美

「なんて、挨拶ができる学校なんだろう！」4月着任後、一番に実感したことです。

始業時間の8時30分、職員室では起立し、一瞬の間で呼吸を合わせ、教職員間で挨拶を交わします。8時40分、登校してくる児童・生徒と、送迎をしてくださる保護者の方々と、昇降口で挨拶を交わしています。中でも微笑ましいのは、様々なコミュニケーション方法で挨拶をする子供たち！この姿があるのは、前述のような**教職員・保護者の方の率先した行動**が、**子供たちのロールモデル**になっているから。

「挨拶を交わす」とは、自分の一方的な行動ではなく、**相手を捉え（静止・注視）**、**意識を向け（尊重）**、**関係をつくる（コミュニケーション）**のこと。「挨拶を交わす」場面は生活の中でたくさんあり、社会において「生きる力の源」と考えます。

このことを踏まえ、💡 R7学校経営計画に、自己表出・自己決定・自己選択の力を育み、**「学びを人生や社会に生かそうとする力」の醸成**を示した所以を、少しお伝えします。

障害者基本法第二十三条に「国及び地方公共団体は、障害者の意思決定の支援に配慮しつつ、障害者及びその家族その他の関係者に対する相談業務、成年後見制度その他の障害者の権利利益の保護等のための施策又は制度が、適切に行われ又は広く利用されるようにしなければならない。」と規定されています。

一人一人の**「意思」を伝達することができるようにする**ことが、大切です。

「小さいころから、提示された選択肢に対して自ら決める」これは経験（体験）があつてこそ。選択できる場を意図的に設定し、様々な方法で意思表示する。その過程こそが「主体性を育み」、培われた力は「自己（意思）決定」へつながります。

でも、その前段「子供の**意思の表れ**を、誰もが**キャッチする術（感度とスキル）はあるのか。**」や、「**子供のできることに、手や口を出し過ぎていないか。**」等、周囲の意識も必要です。18歳になったら選挙権を有し、投票に行く姿を、小・中学部の今から見据えることも大切です。

最後にこれらは、**「家庭」と「学校」が同じ方向（共通の目標）**でいること＝家庭でも学校での学びを地域で汎化する ことで一層の効果が得られます。

「家庭（教育）」と「学校（教育）」のみならず、「地域」そして「子供たち自身」の4者の調和を基盤に、「なりたい自分になる、なりたい自分を見つける！」学びを深化させる教育の展開に、共に取り組んでいただくと幸いです。

## 環境を整え、子供の意思を引き出そう（小学部の実践）

主幹教諭 櫻田 健児

自分の意思を伝えるためのきっかけや方法を整えることで、伝わった経験を多く積めるよう、小学部では様々な工夫をしています。その一部を紹介します。

学習机や個別課題BOX、教室の出入り口、教員のネームプレートなど、子供たちが意思を表出しやすいように至る所で絵カードを使用しています。



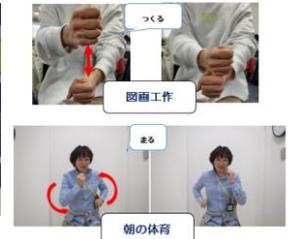
おもちゃで遊ぶことが大好きな子供たち。意思表示も活発になる機会です。鍵のかかった棚の中におもちゃがあるため、カードを使って自発的に要求することを覚えます。



意思表示の仕方は一人一人様々です。言葉やサイン、指差しでの表出、絵カード、音声ペン、タブレット端末の活用など、実態に応じて支援ツールを活用しています。



進級しても分かりやすいように、学部の授業カードやサインを統一しています。変化がないことで高学年になるにつれ、多くの子供が覚えていきます。



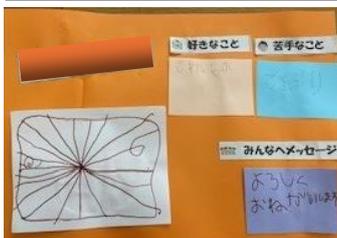
## 伝えよう「自分の思い」「自分の気持ち」（中学部の実践）

主幹教諭 塩田 亜沙美

学校生活の様々な学習場面において個々の自己表出手段を確立していくとともに、自己選択・自己決定の機会を「意図して仕掛けていく」工夫を大切にしています。

○中学部における自己選択・自己決定の学習場面

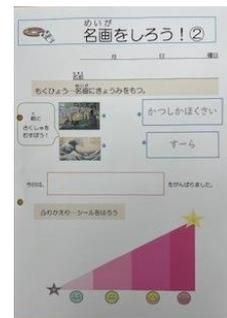
・自己紹介カードを作成する（選択・決定の前提として自己理解はとても大切です）



・学習内容を2択クイズ等にして、自分の考えを表出する。



学習の振り返りで自分が何を学んだのか、ワークシートの記入を通して、学習の定着度を自分で確認する。（作業学習等）



学校生活の中で「自分の思い」「自分の気持ち」を伝える活動を積み上げていく先に、中学部卒業後の進路の在り方や生き方を「人生の主体者として決定していく力」につながると考えています。

### 【えがお後記】

学校や家庭など、様々な場面や機会を通して「表出の仕方」や「選択の方法」、「決定における責任」などを学び・体験していくことは大切なことと考えます。子供たちが「自分で考え、選び、決める」といった、人として本来有している基本的な権利を行使していけるという力が身に付いていけるものと信じています。今月号では「伝える」をテーマとしましたが、コミュニケーションは、双方向によって成り立つものです。相手から「伝えられた」ことの意図を理解して、自分の行動に反映できることも大切だと考えます。

副校長 富樫 忠